

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 8 期第 9 回相模原市緑区区民会議		
事務局 (担当課)		緑区役所区政策課 電話 0 4 2 - 7 7 5 - 8 8 0 2 (直通)		
開催日時		令和 8 年 6 月 2 日 (火) 午前 1 0 時～正午		
開催場所		サンエールさがみはら 2 階 第 1 研修室 A		
出席者	委 員	1 6 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	8 人		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開会 2 議題 緑区基本計画の進捗状況について 3 その他 4 閉会		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。（◎は会長の発言 ○は委員の発言 ●は事務局の発言）

1 開会

緑区役所区政策課長の進行により、会議の成立要件を満たしている旨の報告、会議公開の確認、並びに傍聴希望者がいない旨の報告を行った。

2 議題

牧瀬会長の進行により、議事が進められた。

緑区基本計画の進捗状況について

事務局から資料に基づき、今回のまとめに向け、区別基本計画の概要及びこれまでの会議で挙げた主な意見等を説明した。

○高橋委員

- ・都市部と中山間地域で事情が異なる関係上、横並びで議論することが困難であった。次期計画を定める際には、課題のテーマ性や数値等を都市部と中山間地域で分ける必要があると感じた。
- ・基本計画において指標として掲げている数値の中には、市全体でしか統計を取っておらず、緑区内の数字を抽出していないものがあり、進捗について議論が難しいものもあった。次期計画では、区別で統計が可能な指標を設定するべきだと思う。

○原委員

- ・取組目標Ⅳ「創り合う・つながり合う」に関連して、観光については、各自治体で区分して展開することは適切ではないと考える。次期計画においては、市域に限定せず、広域観光の視点を入れていただきたい。最近では相模湖と上野原で観光船の往来が開始されている。川の繋がり、山の繋がりから必然的に生まれるニーズであり、これらに目を向けなければ、観光に広がりが見えてしまうと考える。

○池田委員

- ・説明資料の中に、データがわかるものについては注釈を入れていただきたい。例えば、説明資料に「インターネット通販の発達」とあるが、ここ10年間で10兆円から20兆円規模まで発達したと承知している。同様に、「大規模小売店舗の出店により買い物が便利になった一方で、商店街における買い物客の減少」とあるが、どれほどの変化があったのか等のデータを示してもらえると、より足踏みすることなく、前に進めるようになると思う。

○猿渡委員

- ・地域福祉に係る取組について、市・区が実施していること、社会福祉協議会が実施していることを線引きすれば、区取組として示せると思う。
- ・中山間については三ヶ木でバスが途切れる等、交通上の問題がある。
- ・それぞれの課題の中で、市がどのように取り組んで、どのような結果が出たかを示してもらえれば、理解も議論もしやすくなると思う。

◎牧瀬会長

- ・取組目標内に関係団体を記載した方が、読み手に取って理解も議論もしやすくなると思う。

○田野倉委員

- ・説明資料に、リニア中央新幹線についての課題が記載されているが、大西大通り線の事業認可についても話が進んでいると承知している。賛成意見もある一方、立ち退きを求められる住民からは反発の声もある。住民の納得を得られるまで、何度でも説明会を行うべき。

○関戸委員

- ・満遍なく議論しようとする、どうしても議論で終わりにになってしまう。特に、自然、開発、道路整備を重点的に目標設定していただきたい。リニアの駅と車両基地が整備されることは、区の発展性を裏付ける要素になる。

○林委員

- ・基本計画策定時と現在では状況が大きく異なる。これからは、世の中が発展し、強くなっていくというよりは、自分たちの生活をどう守るかという時期になっていく。
- ・都市部では自転車は有用な移動手段であり、市はシェアサイクル等の取組を進めている。しかし、緑区は車社会という特性を有していることから、こうした施策を市全体に一律に展開することは適切ではなく、区の実情に合致した市民のための施策とする必要がある。

○原委員

- ・これからの10年間は、時代変化がより激しくなっていくと思う。少子高齢化はより困難な問題になっていく中で、経産省からエッセンシャルサービス（人々の生活に不可欠な物品および役務を提供する産業）の供給の持続性確保に関する考え方が発信されている。町に1つしかない産業が撤退しないように、国の課題として方針づけられたところ。その視点を入れてほしい。

○立川委員

- ・これまでの会議で議論できたことは良かったが、挙げた課題について、その後どうなったか見えてこない。すぐに解決するものでないと思うが、市・区の間取りやその準備等の状況が伝わってこないため、区民会議の場で議論して終わりになっている気がする。

○糸久委員

- ・ここまでの議論の中で、都市部と中山間地域の違いについての意見が数多く挙げられた。例えば、説明資料に「個人商店の後継者不足」とあるが、青根や青野原の場合は個人商店が無く、議論がしづらい。次期計画については、両者の意見を分けた方がいいと思った。
- ・交流人口を増やすことも重要だと思う、法政大学では、牧野元気創生会の活動としてやまなみ温泉の整備や、佐野川でお茶を販売、城山でe-bikeツアー、サッカー部は広田小学校と小大連携活動をしている。学生が佐野川に行く際は、大学からバスを出す必要がある。緑区の今後の課題を考えると、中山間地域の交通事情というのは非常に大きな課題になってくると思う。昨年、私も参画し、国交省において「都市空間における自動運転技術の活用に向けたポイント集」というものを作成した。これがいつ社会実装されるかは不明であるが、次期基本計画策定にあたっては、自動運転や次世代モビリティというキーワードを入れもよいのではないかと思った。

○池田委員

- ・各課題分野別の相関図のようなものを作れないか。例えば、交通には医療や観光が関係し、その先には医療機関の維持や、公園・広場の不足等、まず解決しなければならない課題の抽出に寄与すると思う。議事録等、文字だけの資料は人の目に留まらない。計画上で相関図によって浮かび上がった課題を図示し、区民会議で議論しているというように示せば、市民や、市外在住者に対してのアピールにもなる。区の魅力は、各団体が実施する様々な活動自体等により創出されるものではあるが、既存の事業について、人の心が見えるような資料が示されると、より意味のある区民会議になると思う。

○高村委員

- ・緑区に愛着を持って、緑区を良くするために議論を重ねてきたが、意見出しだけで、その先がないとは感じていた。私はイベントで各地域を巡っているが、近隣の方から理解を得ることが特に難しい。いただいた意見に対し、毎回しっかりと解決策を練ってイベントに挑んでいる。それでも厳しいお声をいただくこともあることと同様に、市にも苦労はあると思う。ただ、池田委員よりご指摘のあったように、相関図などにより目標を明確化し、目標達成まで委員と

して関わることができる、より意義のある区民会議になると思う。また相関図で明確化すれば、各委員が得意とする分野をそれぞれ明確化でき、より効果的な意見交換ができるようになると思う。

○猿渡委員

- ・以前は区民会議だよりが発行されていたが、最近は発行されていない。タウンニュースやめぐり報にて、区民会議の活動を周知するべき。
- ・最大の課題である少子化について、解消のためにはいかに自分たちの地域に戻って来てもらえるかが重要。そのためには、地域のお祭りや伝統文化を守ったり、ミウルの缶バッジを各総合事務所で用意し、お子さんに配ったりする等、地域に残ってもらうための取組をしていく必要がある。

○森下委員

- ・他の委員からも再三挙がっているが、都市部と中山間地域では課題が違う。藤野にはほとんど商店がなく、買い物の際は上野原にある大型スーパーを利用するのが実情である。その中で、来年にはバスが全て廃止される。市では乗り合いタクシーを実施しているものの、活用したとしても、これまでバスであれば数百円の交通費で済んでいたものが、1,000円程度まで増大する。まちづくり会議でも対策を考えているが、今後大きな課題になってくると思う。

○石井委員

- ・区民会議の目的のイメージとして、「住んでよし、働いてよし、訪れてよし」といった地域づくりが求められていると考える。
- ・地域によって様々な課題があるが、地域の中でも温度差があることを知っていただきたい。例えば、バスの廃止については、駅に近い人たちはそれほど危機感がない。また、市の乗り合いタクシーについては、地域で利用者数を確認したが、非常に少なかった。

○佐藤（裕）委員

- ・各地域によって、それぞれに課題がある。先ほどバスの廃止の話もあったが、市の事業の中で、5月23日～24日に陣馬山登山客の利用を想定した観光バスの実証運行が実施された。その他の地域課題についても、地域で解決策を考えていかなければならない。その上で、地域でできないことは区に要望していきたいと考えている。

○山口委員

- ・委員から挙げた意見に対して、区側からの答えや、現況についての説明があった方がいいと思う。

○中西委員

- ・区民会議の目的は、区の課題を集約するというディフェンス的な目的と、まちづくりの方向性について協議するというオフェンス的な目的がある。市と区それぞれでしかできないことがあると思うが、それらが見えてくるとより分かりやすくなる。
- ・多くの方に来てもらうために、他との差別化を図ることが重要であるということとは、観光にもまちづくりにも共通する部分かと思う。中央区・南区・近隣他市との違いがわかると、緑区としての魅力を知ることができ、差別化にもつながっていくと思う。

○原委員

- ・町が持つ風土そのものが魅力になる。風土を守ることを、次期計画において意識してほしい。
- ・区民会議はかつて1時間で実施していたが、現在は2時間程度となっている。今後、相模川清流の里等にて2泊3日の集中的な会議を実施することにより、例えば都市部と中山間地域でグループ分けした上で、より効果的に議論を深めることができるのではないか。緑区は他の2区より面積も大きく、課題も多岐にわたっている。本気で取り組むのであれば、そうした規模の会議を検討する価値があると思う。

3 その他

事務局より、次の3点について説明、連絡した。

- (1) 緑区地域振興課が事務局を務める、緑区魅力づくり事業実行委員会の令和7年度実績について情報提供した。
- (2) 「第30回甲州街道小原宿本陣祭」のクラウドファンディング型ふるさと納税について情報提供するとともに、周囲への周知を依頼した。
- (3) 次回の区民会議は令和8年7月14日(火)午後1時より、緑区合同庁舎集団指導室にて開催する旨を連絡した。

4 閉会

相模原市緑区区民会議委員出欠席名簿

(順不同・敬称略)

区 分	氏 名	所 属 団 体 等	出欠席
まちづくり会議	○田野倉 義信	橋本地区まちづくり会議	出席
	佐藤 金男	大沢地区まちづくり会議	欠席
	林 和博	城山地区まちづくり会議	出席
	関戸 仁	津久井地区まちづくり会議	出席
	河津 暁	相模湖地区まちづくり会議	欠席
	佐藤 裕幸	藤野地区まちづくり会議	出席
関係団体	石井 敏夫	相模原市２２地区社会福祉協議会緑区連絡会	出席
	立川 直子	相模原市民生委員児童委員協議会	出席
	佐藤 稔	相模原市ＰＴＡ連絡協議会	欠席
	池田 孝夫	相模原商工会議所	出席
	森下 裕司	津久井地域商工会連絡協議会	出席
	原 幹朗	公益社団法人相模原市観光協会	出席
	沼尾 将輝	公益社団法人相模原青年会議所	欠席
	山口 諒	公益社団法人津久井青年会議所	出席
	高橋 靖典	一般社団法人藤野エリアマネジメント	出席
	山本 祐子	特定非営利活動法人ふじの里山くらぶ	欠席
	前山 善憲	特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら	欠席
学識経験者	◎牧瀬 稔	関東学院大学法学部 教授	出席
	糸久 正人	法政大学社会学部 教授	出席
区民	猿渡 達明	公募委員	出席
	高村 るみ	公募委員	出席
	山下 友梨子	公募委員	欠席
民間事業者	中西 亮介	相模湖リゾート株式会社	出席
	櫛見 大	東日本旅客鉄道株式会社	欠席

◎は会長、○は副会長